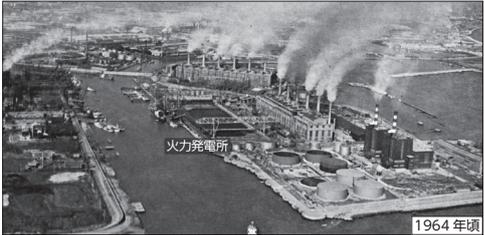


1. 移り変わる阪神工業地帯

1964年頃の様子	2019年の様子
	
<p>① 主な工業 (例) 石油工業 化学工業 製鉄所 など</p>	<p>③ 特色 (例) 太陽光発電のパネルや蓄電池などの新しい分野の工場のほかに、大型の物流施設やテーマパークなどが集まっている。</p>
<p>② 課題 (例) 地下水のくみ上げすぎによる地盤沈下や、工場の排煙による大気汚染などの問題が起こっていた。</p>	<p>④ 環境に配慮した取り組み (例) 屋根に大規模な太陽光発電設備を設置したり、工業用水のリサイクルを進めたりしている。</p>

- (1) 1964年頃、大阪湾の臨海部ではどのような工業が発達していたか、①に記入しよう。
- (2) 1960年代の大阪では、工業に関連してどのような課題が起こっていたか、②に記入しよう。
- (3) 現在の臨海部の特色を、③に記入しよう。
- (4) 新しい工場や施設では、環境に対してどのような取り組みが行われているか、④に記入しよう。

2. 地域に根ざした中小企業

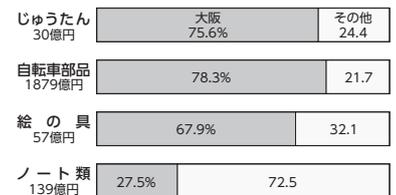
- (1) 資料Ⅰを見て、これらの工業製品の特色を挙げてみよう。

(例) 生活に関わりが深い、日用品に関連するものが多い。

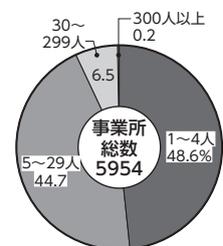
- (2) 資料Ⅱから、東大阪市の中小企業の割合を読み取り、東大阪市の中小企業への支援の取り組みや中小企業に関する地域が抱えている課題を挙げてみよう。

中小企業の割合	99.8 %
支援の取り組み	(例) 町工場の高い技術力を結集して、人工衛星を作るプロジェクトなどの取り組みなどを行っている。
地域の課題	(例) ・後継者不足 ・工場の跡地に建てられた住宅に住む新しい住民からの騒音の苦情 など

資料Ⅰ 大阪府で生産が盛んな工業製品



資料Ⅱ 東大阪市における製造業の従業員数別割合



本時のまとめ

◆ 阪神工業地帯では、環境問題に対してどのような取り組みを行ってきたのか、説明しよう。

(例) 大規模な工場では、工業用水のリサイクルを進めたり、屋根に太陽光発電を設置したりする取り組みを行い、町工場が多い地域では、騒音や振動の規制などの取り組みを行った。